

發行所 常盤毎日新聞社  
印刷所 川崎文治  
電話 五五五番

# 常盤毎日新聞

定価 一月一元二角 三月三元五角 半年六元 一年十二元  
電話 五五五番

五月二十二日 刊

### 常磐文藝

馬子(民謡) 飯村閑舟

寒い山嶺の  
渦風おろし  
鼻唄歌ひ  
峠越し  
嶮路行きます  
危難な仕事  
峠茶屋への  
急ぎ道  
私しや手綱を  
右手に握り  
馬の歩みの  
先驅役

三井呉服店  
セルとモスの  
大廉賣

初夏には  
實用のセル  
全盛の  
着尺モスリン  
今年代表的の  
洋傘

平町三丁目  
三井呉服店  
電話三十八話番

### 新古圖書賣買

# 郷土社

四百字詰 百枚 三十銭  
百五十字詰 百枚 二十銭

授教日毎日  
自午前十時  
至午後八時

休日  
土曜日  
日曜日  
大祭

但し彈法と歌曲  
は隔日の事

平手錦  
水島香蘭

五月人形  
(小道具一式)  
武者人形  
座敷帳

例年の通り目下  
賣出中です  
是非御用命の程を!!!  
雑貨  
銘茶  
平町二丁目百七銀行隣

外科...泌尿科  
皮膚病梅毒科  
阿部醫院  
入院  
隨意  
平町字新川町  
電話五五七番

## 大暴風雨の中に

寄書 不樂大岳人

而して伊太利はギリシヤとの間に戦端を開かんとしバルカン、バルチックの諸國も絶えず隣國と争闘を事としギリシヤ、トルコの撃争は遂に、英國佛國間の國際關係を一時陰惡に導いたものであつた、前年の歐洲と今年の歐洲の形勢とを比較すると後者は稍々小康を得た感がある、然し乍らそれは嵐の前の静かさと同様であつて紛争の種はそちこちに萌芽を見出して居るのである、歐洲に於ける平和難が

英佛二大勢力の衝突に依つて益々錯綜し國際利益の背反は彌が上に兩國の關係を離反せしめて只單に兩國は形の上の敵對行為を採らぬだけである隣小國を背景とした佛國の地位が歐洲大陸に勢力を占むる時英國の均衝勢力を驅逐するに於ては將來英佛間に競争なしとは誰か云ひ得様を國際平和の實現に列國の協調提携程力強いものはないのである。然るに今や英佛二大強國は互に自國の利益と勢力の均露とを主張し其並行一致の不可能を暴露して以來公然と國際離反の態度を採るに至つては歐洲の平和難は益々

々深きを加ふるものと云はねばならぬ。  
世界のバルカンゼーションが益々甚だしくなると云ふ事は取りも直さず帝國主義の流行を意味する、帝國主義は排地主義であり獨占主義であり浸畧主義であり非人的主義であるのである、歐洲大戰は聯合國が獨逸の帝國主義を危險なりとして之に對抗して持上つた争闘であるがそれは表面の事であつて矢張り英も佛も假面を取れば同じ帝國主義者であつたのである。つまり歐洲大戰は帝國主義の鉢合せであつたのである。

### 千代田火ノジ!

富貴コテ!は

和洋銅鐵  
金物問屋  
釜屋商店  
電話 二九番

平町五丁目

### 楽しい團樂に

食後のコーヒ

コーヒは松本屋の品に限る  
粉末コーヒ一罐入 金四十銭  
四半ポンド一罐入 三十五銭  
(御便利な)コーヒ  
!入角砂糖百匁

目丁四町平  
ヤトモツマ  
四一ニシモシモ  
三一四六臺仙替振

### 品質の金庫は

東京荒木製に限る

福島縣下代理店 高野得助商店  
電話三二六番

御申込次第カタク進呈仕候

### 時代映畫

配役  
市川百々之助  
市川瑞子  
市川静子  
市川右太衛門  
市川右太衛門  
市川右太衛門  
市川右太衛門

### 大江戸の武士 (全七卷)

其他數十名出演

芦屋超大特作品  
愛活家の御希望により再度上映!!!  
戀以上の戀 (全七卷)  
「當映畫は今回南支上海地方に輸出せらるゝに付當備を以て本邦映畫界に於ける最終の上映とす」

外敷番 帝國館  
電話五五五番

### 株買中値

左記の値段は本日の標準値に付御用の節は御問合願候

錦格	拂込	時價
磐城銀行	五〇〇	五七〇
平銀行	五〇〇	七三〇
磐城銀行	一一五	一〇五
磐城銀行	三〇〇	二九五
田村實銀	一一五	一一五
四倉銀行	一七五	一七〇
農工銀行	二〇〇	二四五
同新	一五〇	一八八
同新	一五〇	一六〇
同新	一一五	九八
同新	一一五	三八五
同新	一一五	一八〇
只見川電	一一五	七三
植田水電	一一五	一五五
好問水電	一一五	一四〇
磐城建物	一一五	五五
磐城製菓	一一五	六〇
平信託	一一五	三五〇
磐城物産	一一五	一三五
植田物産	一一五	二八〇
平製氷	一一五	二二〇
好問軌道	一一五	三三〇
入山新	一一五	一七〇
小田炭礦	一一五	一一〇
磐城炭礦	一一五	四三〇
同新	一一五	一九〇
同新	一一五	六八〇
同新	一一五	三三〇
同新	一一五	八〇

東新株 先限  
前場後場共入電致居候  
平町田町 電話三二二番  
丸登株式会社  
川添房二郎

### 平局の電話架設

#### 昨年の七割位か?

本日から受付開始

午後一時迄に四十八通

平郵便局の本年度電話架設申請は既記の如く一週間の豫定で本日から受付を開始し午後一時迄に十八通の申込みあつた由であるが今年からの架設に對しては其寄附金額が三百五十圓に値上げされた爲め昨年の申込数二百七十八通に比較しては幾分減少するであらうと見られて居る、右に就いて森平局長の語る所に依れば『本年はどの位の数が架設されるか未だ何等の通知に接しませんから私の想像を申上げるより外ありませんが従來電

### 平町地方の金融界

又もや不況に陥つた

流用資金が少く

平町地方の金融は衆議院議員總選舉の際一寸の間景氣がよかつたが最近またもや不況に陥り各銀行ではいひ合した様に貸出しを見合せ銀行關係者に對してさへ貸しよぶると云ふ状態であるため春蠶播立期に際しての昨今養蠶家連は頗る閉口してゐるが事實に於いて各銀行とも流用資金は僅少らしく其理由は不況による回収不能と資金の少いたためである

### 演武場披露

平分會の協議

大日本武徳會平分會にては本日午前十時から平署樓上に於て分區長會議を開き平署演武場新築披露を兼ねた剣道大會開催の件に關して協議した

### 日取り決定

六月一日に

剣道大會及び平署演武場新

築披露に關する協議は別項の如くであるが其結果來月一日午前九時から平商業學校に於て開催すべく決定

看護婦合格者 平町

南町清野看護婦學校出身にして今回看護婦試験に合格

### 薄着の婦人の

#### 豊かな肉體美がそよる

其爲めの犯罪が多く 若い娘の一人出は最も危険

伊藤平署長は語る

これから日増しに暑くなり従つて婦人は薄着となる爲めに豊かな肉體美にそよられて胃す犯罪が多くなつて來る故に若い女の外出に際しては最も

警戒を 怠つてならぬ事であり且つ親達も相當な注意を要する季節となるのであるが右に關し伊藤平署長は語る『これから

は活動寫眞館や芝居などまた公園などなれ、しく言葉をかけて來るものと違つて無言の中に薄着をした婦人の豊富な肉體

### カテイラン

#### 筒のしのだ巻

筒でも、キャベツでもフキでも宜しいのです。筒ならば茹で、よいほどの大きさに薄く切ります。キャベツならば熱湯に一寸くぐらせ、フキならば糠を入れ、ゆで、太いのは四つ位に

したのは左の如くである 伊藤ミチ、鈴木トヨ、遠藤スガノ、馬目久、竹内はる、本多ヤス、金澤キクエ、鈴木スイ、野崎キミヨ、田崎マサノ、小島ハナ子、猪狩リト、木田美津子、猪狩リト、木田クラ子、矢吹サハヨ、木田カネヨ

### 不平受付

馬糞が充満 平町は馬糞で充満して居ます、カラ風が吹くと何處でも乾燥した馬糞とホコリで困ります、水道の水は無駄に使ふなど云ふのですが堀の水も不潔ですし何んとか町で撒水の方法を講じる譯には参りませんか(馬糞生)

### 募集

文藝其他一般投稿を募集します

### 常磐片々

平町のカケ聲道路も四分通り工事が進む

而し四分通りもカケ聲ばかりぢやないかね

どうも信用が無き過ぎる

カケ聲の汚名を除くには一時も早く遣つてのけるに限る

役場の新築等もカケ聲仲間ぢやないかなんて隘口を叩いて居る者もありますよ

平町の本年電話架設は昨年より少く交換姫喜ぶ

豊かな曲線美にそよられて妙な犯罪心を起す者が是れから多いと署長さんのお話

其罪何れにありや

### 南裡新道の

#### 工事進む

税務署と郡衙間は

本月中に開通

平町南裡新道開鑿の工事は其後大いに進捗し全工事の約四分通りの進行を見たが税務署と郡役所間は本月中

### 濱通りの

#### 蠶兒は良好

霜害も少く

石城郡内濱通り方部では過般の霜害に於ても大した被害なく目下蠶兒は二齡二三日乃至は二眠期で経過良好

### 火防の督勵

平消防組にて

近時各地に頻々と火災ある爲め平消防組は警察署員と協力し市内全般に涉り火防督勵中である

### 小名濱琵琶會

平町警水會主平手錦鞭氏の門弟等相寄り小名濱町に琵琶研究所を設けた爲め去る十七日夜同地警水會にて是れが披露演奏會を開き藤原慶水の『必の花』渡邊香風の『石童丸』其他數番あり頗る盛況を呈した

### 不具の身を

#### 高壓線に掛る

遂に絶命した

石城郡大浦村大字長友字溝江喜代治五男古市新吾(二)は性來神經症にてその上不正具の身を悲觀して十四日午後八時頃同字地内の郡電會

### ヒロイモ

平町新

川町小野幸一氏は十四日南町織田齒科醫前にて一圓九十二錢在中の皮墓口△平町田町狩谷敏行氏は十四日平

銀行前にて八十九錢在中の墓口△平町北目町長谷川繁次郎氏は十六日北白銀にて

九圓卅七錢在中の墓口△平町古鍛冶町小松利意氏は十七日平信託前にて萬年筆

一本を夫々拾得し此程平署に届出た